

2026年5月の生産・出荷実績に関する石油化学工業協会コメント

令和8年6月18日

2月末のホルムズ海峡の実質封鎖以来、当協会の各会員企業においては、国内石油精製からのナフサ調達の継続、中東以外からのナフサ調達の拡大及び製品在庫の活用により、石油化学製品の供給継続に全力を尽くしている。

5月の生産・出荷実績は、ナフサクラッカー等における定修の集中もあり、エチレン生産量は前年同月比で減少であったものの、国内石油精製から供給される国産ナフサの一定量確保に加え、会員会社による継続的なナフサの代替調達の確保が進んだことで、前月比の生産量は約15%増加している。主要石油化学製品であるポリエチレンやポリプロピレン等においても、一部で製造プラントにおける定期修理の影響など製品毎の差はあるものの、エチレン同様に前月比の生産量は増加している。

また、国内出荷においては、大型連休による出荷日数が前月比▲14%、前年同月比▲10%となるなど季節的要因による減少が前提にある中で、主要石油化学製品では概ねこの減少幅を上回る出荷がなされているところであり、全体として供給は維持できている。

在庫の状況についても、ポリエチレンやポリプロピレンにおいては国内需要の3か月以上の水準を5月末においても引き続き維持しており、直ちに供給困難となる状況ではないと認識している。

政府からもナフサ由来の化学製品の供給は年度を超えて継続できる見込とされており、石油化学製品の供給は、6月以降も平年並みの供給が見込まれており、引き続き需要を満たすべく安定供給を維持していく。

当協会としては、引き続き、国及び会員企業と密接に連携しつつ関連情報収集や必要な措置の徹底など安定供給に必要な対応を行っていくこととしている。

最後に、当協会としては、事態が一刻も早く収束し、ペルシャ湾地域における船舶の安全航行が回復することを強く求めるものである。

【本件に関するお問合せ】

石油化学工業協会

志村、武井 TEL 03-3297-2019